

# 夜の旅と昇天 (1/6) : 夜の旅

:

明:旅にまつわる背景、そして 言者ムハンマド (神の慈悲と祝福あれ) の初期の人生についての 。

目:[事イスラ ムの真 性を示す数々の ムハンマドの 言者性に する](#)

目:[事 言者ムハンマド彼の 言者性の](#)

より: ア イシャ ステイスィ

E02 Jul 2012

集日 19 Feb 2023

## プ ロ グ



言者ムハンマド (神の慈悲と祝福あれ) の、マッカの モスクからエルサレムの最も き  
マスジドまでの一晩にしての旅は、神によって与えられた奇 でした。それは 的な夜の  
幕 けであり、その夜に 言者ムハンマドは昇天し、神との接 を果たしたのです。

“????????????????????????????????????1????????????????????????????????????2????????????????????????????????3  
??17?1?”

その旅は形而下の 象であり、これから 明される一 の出来事は、すべて一夜の に起きた  
ことです。

このシリーズでは、英の「モスク」の代わりに原の「マスジド」を使用します。なぜならマスジドという言葉はムスリムたちが礼する建物よりも多くの意味を含むからです。マスジドは「サジャダ」という平伏すことを意味する根から派生するため、マスジドは平伏す所を意味します。言者ムハンマドはこう言っています。「大地は私にとってのマスジドとされたのだ。」[4](#)

この神による恩は、ムハンマドの共同体にのみ与えられたものです。

ムスリムは不でない所であれば（一部の例外を除き）、どこでも礼することが出来ます。礼に特化した建物もありますが、ムスリムが礼する所は、それがどこであれ逐的な意味でのマスジド、つまり平伏す所なのです。平伏す行は礼において最も重んじられている部分です。ムスリムの足が地面に触れるとき、その人物は非常に神に近づきます。礼は信仰者とその主との契約を立し、この夜において一日五回の礼が付けられたのです。

以下の逸話からは、ムハンマドの人物像、そしてなぜムスリムたちが彼を敬してやまないのかを学ぶことが出来るはずです。また、エルサレムのマスジド アル＝アクサ がなぜイスラームにおけるモスクの一つであるのかが分かるでしょう。神はクルアーンの中でエルサレムを「周を祝福した」土地として言及しています。マスジド アル＝アクサ の内の一部であった岩のドームは、最も著名なエルサレムの象徴でもあり、ムスリム一人一人の心の中で特別な位置を占めています。それがなぜなのかをここから学び取ることが出来るでしょう。それでは7世のアラビア半島、マッカの町から夜の旅に出て昇天した言者ムハンマドに目を向けてみましょう。

## 旅の始まり

言者ムハンマドが最初にクルアーンを示して下された10年、彼は二人の近者を亡くしました。一人は彼の叔父であり、言者が孤だった幼少の頃から彼を敬してやまなかったアブタリブ、そしてその二ヶ月には言者の最愛の妻ハディジャが亡くなりました。この年は、「悲しみの年」として知られるようになります。



言者ムハンマドの使命とは、全人を唯一なる真の神への崇へたくことでした。それゆえ、彼の人生のあらゆる面は、この大なる任へとえさせるための神による画の一部だったのです。幼少代、彼の心からは魔の一片が取り除かれたため、成人しムスリム国家を建するになっても彼の心は清かつな信仰心によってたされていたのです。こうして、奇の夜は始まりました。

言者ムハンマドには白い物がもたらされました。彼はアル=ブラクと呼ばれるその物を、よりは小さく、口バよりは大きな物だったと述べています。この物は、一けで渡すかぎりのくまでけけることが出来たと彼は言っています。つまり、一回の跳で途方もない距を移ることが出来たのです。天使ガブリエルはその物にるよう言者ムハンマドに告げ、彼らは共に最もきマスジドであるマスジドアル=アクサまでの1200?以上を旅したのです。

言者ムハンマドは、地平を一跨ぎするアル=ブラクにりました。アラビア半の砂漠を望む夜空には、星がいていました。彼はにあたるや、新たに化された心の鼓を感じ取っていたことでしょう。この夜の旅の奇において、言者ムハンマドが目にした神のしるしや的なる出来事の数々は、私たちの想像をすものだったにありません。

---

## Footnotes:

1 マッカの域にあるモスク。

2 エルサレムの最もきモスク。

3 アラビアでアヤといい、明、教などを意味します。

4 サヒフブハリ。

5 同上

6

サヒフ ムスリム

7

サヒフ ブハリ

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1511>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。